

説話分析によるトッケビ像の再検討 —韓国口碑文学大系を中心に—

金 俊秀

(堀田 穰ゼミ)

第1章 はじめに

韓国人の幼少期によく読む童話では、西洋からの童話は勿論、韓国の物も本として出版され、多くの童話では「トッケビカントゥ」「トッケビ棍棒」「トッケビとハシバミ」など、タイトルからトッケビが主役として登場するものから、パンソリ「フンブジョン」が原作である「フンブとノルブ」でも勸善懲悪の象徴としてトッケビが登場した。童話だけに留まらず、「コビコビ」「昔々」などの90年代のアニメーションでもトッケビが登場し、2014年から放送し続けている「シンビアパート」シリーズでも「シンビ」という名のトッケビが主役として登場し、当アニメーションは7シーズンのテレビシリーズ、5つの劇場版が発売されるほど韓国で興行されている。

上記のように、トッケビという妖怪は昔から現在まで、子どもに親しまれた存在でありながら、どのような妖怪であるかはよく知られていない。我々がよく知っているトッケビのイメージ像は角、陰悪な顔、上半身裸、棘の付いた棍棒であるだろう。しかしながら、このようなトッケビ像は日本帝国時代の教科書に収録された伝来童話で、トッケビの挿絵に鬼を使うことから始まり、それが慣習として続けられたことが原因である。⁽¹⁾それは現代でも続けられて、伝来童話の挿絵、アニメーションのキャラクターデザインでも相変わらずトッケビは鬼として描かれている。

このような問題点を踏まえ、筆者は韓国口碑文学大系の説話を基に、トッケビとはどのような妖怪であり、本来のイメージ像について検討することを目標とする。

第2章 韓国口碑文学大系とトッケビ

(1) トッケビとは何か

韓国人であれば、誰でも聞いたことはあるトッケビであるが、トッケビ関連メディアが数が少なく、内需として発達したこと、国内でも妖怪に対する研究が活発でないことから、海外ではトッケビという名称がなじまないのもであると考えられる。よってこの項目では、国立民俗博物館が製作した韓国民俗大百科事典で収録されたトッケビの定義を簡単に紹介しようと思う。以下は筆者が翻訳したことを明記する。

非常な力と怪しい才で、人を惑わし、意地悪や、陰しいことをするが、人の助けにもなる神。トッケビは里の吉凶禍福を司る里共同体の堂神として崇められる対象であり、病気を引き起こす疫神として追い払われる対象でもある。しかし家庭信仰の領域では富の神、豊漁の神、家業守護神、鍛冶の神などの属性を表す存在として認識される。

トッケビは箒、火かき棒、舵、杵、篩などの、人が常に使い捨てる、手垢が付いた物が変化して生まれると知られている。人の血液が付いたもの、特に女性の経血が付いた物がよくトッケビになる。たまに、動物の精霊、草木の精霊、器物の破片がトッケビになることもある。

トッケビは主に暗くしめっている、陰惨なところで現れる。森の僻地、離れ屋、水辺、奥まったところにある家のなか、町の入口等でトッケビが登場する。トッケビが登場する時間は暗い夜である。雨や霧などで視界が狭くなると昼にも表れる。

トッケビは意地悪な性格で、人を揶揄うことを楽しむ。シルム（相撲）を好んで、人に

徹夜でシルムを挑み、美しい女性の姿で、男子を惑わす。歌と踊りを楽しんで、遊ぶことを好み、女好きな習性を見せる。愚かさもトッケビが持つ属性の一つである。人にお金を借りて、偏在を繰り返す物語が代表的な例である。

トッケビは神通力があり、一晩で池を埋めて平地にすることもできる。水田に石を山積みにし、石を犬と牛の糞に変えるなど、自由自在に造化を成す。この神通力で人に財物と福を与える。豊作と豊漁の成し、沢山の財貨を得て山海珍味を思い切り味わせることもできる。

トッケビの多様な属性にふさわしく、その形相も変化無双で各様各色である。トッケビを表現したと推定される鬼門瓦では怖い形相をしている。国と時代で姿が違うが、邪気を追い払う存在としての怖さと威厳を持っている点は共通である。頭の角、大きく剥いた目、大きい口、鋭い牙、毛が生えた胴体と長い爪等が鬼門瓦に表現されている。

文献に記録されたトッケビは独脚鬼と呼ばれ、足が一つしかない姿で登場する。背が大きく、上半身が雲に隠れてよく見えない巨人の姿で記録された場合もある。『慵齋叢話』では腰から上は見えず、下半身だけ見える鬼物に対する話がある。背が高すぎて服を着れず、腰の下は白紙をまとしてスカートにした。足は素早く、真っ暗なことは漆塗の如くである。長い間、地下にあったからそう言ったと言われている。

口伝承の噺ではトッケビは多様な姿で登場する。具体的な姿を晒さず、声、鳴き声、笑い声、騒々しい音、光等で存在を暗示する場合もある。トッケビが普通男性で現れるが、たまに美しい女性で現れ男性を惑わす。

全羅道漁村のトッケビを奉る祭儀ではトッケビが具体的な形相で登場することもある。ジン生令監またはホ生員と呼ばれるトッケビ神体は麦藁で作られる。下半身では大きい男根を晒した姿をしている。

トッケビは荒々しく、超人的能力があり、恐ろしい存在であり、恐怖の対象になる。意

地悪くて悪戯が酷く、軽薄でありながら手薄で愚かな属性も持っている。変化無双な神通力を見せるがどこか抜けて煩雑な神である。またトッケビは人に助けと財物をもたらせる親近感ある存在である。家庭信仰の領域ではトッケビのこのような能力が発揮されることを祈願する祭儀を行うこともある。⁽²⁾

角が付いたトッケビに対する描写は鬼門瓦で登場しているが、鬼門瓦、鬼門像をトッケビとはっきり言えるかは疑問である。鬼面文様の意義は辟邪機能に置いたものであるが、トッケビ自体が雑鬼の属性を持っているため、鬼面文様とトッケビは本質的に違うことが分かる。⁽³⁾

(2) 韓国口碑文学大系

トッケビのイメージ像に対して検討する前に、筆者が論文のために参考にした韓国口碑文学大系に対する紹介をする。以下の内容は韓国口碑文学大系データベースの事業案内の内容を翻訳、まとめたことを示す。

韓国口碑文学大系は1980年代韓国学中央研究院が中心になり、全国60余市郡の4千余名以上の口術口演者を対象に、説話、民謡、巫歌などの口碑文学資料を収集・整理、85巻付録3巻を出刊し、説話15107編、民謡6187編、巫歌376編、その他21編が収録された。

この時期の調査を第1次事業とし、成果を継ぐため2008年、実的・量的に豊かにするため「韓国口碑文学大系」改定・増補事業を10年間実施する。教育科学記述府から支援を受け、国家的事業としてデジタル情報技術を活用し収集した口碑資料を統合、デジタル情報システムを構築し、多様なコンテンツを開発して口碑文学の大衆化及び文化産業の活用性を高めるために始業背景とする。

第2次事業では第1次事業で調査されなかった地域と北朝鮮、海外地域の説話、民謡、巫歌を中心に進行された。

研究開発過程で、説話、民謡、巫歌研究者から始め、童話作家、文化コンテンツ開発者

などが集まって、採録された説話のあらすじを要約、代表説話を選定して理解しやすく書きくだし、口碑文学類型分類索引集、口碑文学モチーフ資料集などのコンテンツを開発する。デジタル編集のため、現場調査結果を総合・分析しデータベースを作り、これをサービスするポータルシステムを構築する。これをもって知能的な資料検証用電算プログラムを開発し、オンライン上での資料管理が可能なシステムを運用することで資料の品質を高め、標準化・均質化を図る。⁽⁴⁾

(3) トッケビ資料調査図表

トッケビに関する説話全体を年度別・地域別に整理した図表である。(筆者作成)

現在韓国口碑文学大系のデータベースに収録されている全体資料数は56386件であり、中で説話は28582件である。トッケビの説話は全部で1109件で説話全体の4%であり、虎の説話1191件に次ぐ数を占めている。

年度別の図表を検討してみると、第1次事業で収録したトッケビ説話は156件、第2次事業で収録された説話は953件である。研究としては両事業の資料を使うことが正しいと思うが、第1次事業の資料のデータベース上の音声・テキストの音質、方言、テキストなしなどの問題によって調査対象から除外した。

地域別図表を検討してみると、韓国全域は勿論、海外の高麗人からもトッケビ説話が収集されていることが確認できる。地域別に数の差はあるが、

済州をのぞいて10件以上の資料が収集されていることから、トッケビが普遍的によく知られている存在であることを推測し得る。また、比較的海岸地域で採録される説話の数が多いたるは、海岸地方で豊漁を祈願するためのトッケビ信仰が存在することと結び付けることが出来ると思われるが、豊漁と関する説話の数が少なかった点と、地域的特徴が加味された説話も少ない点から、トッケビに対する認識に地域別の差がないと判断される。

次は第2次事業で収録された説話953件中、トッケビの外見に対する描写、言及がある説話を整理したグラフである。一つと説話に多数の外見に対する描写が存在する場合、それぞれの項目でカウントした。(筆者作成)

トッケビ説話は主に5つに分類され、

1. トッケビに惑わされた噺
 2. 福を与える神としての噺
 3. 漁村の神としての噺
 4. トッケビを退治する噺
 5. 民間の神・風水をよく知るトッケビの噺⁽⁵⁾
- のいずれかに属する。その中、トッケビの外見が描写される説話は、1. トッケビに惑わされる噺で現れることが大多数を占めている。またトッケビ火の説話の中で一部は3. 漁村の神としての噺に属することが確認されている。

辞典的定義でも語られる通り、説話でのトッケビは人が使う事物がある原因によって妖怪化したものとして扱われ、グラフでの事物の姿で描写されるトッケビは、何かに化ける以前のトッケビの正体として語られている。また、人が使う道具という所から箒、火かき棒、杵等の過去韓国の生活空間でよく見られる事物が対象となり、最も多い

表1

全体資料数	1978～1980	1981～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2018
1109	58	98	0	225	728

表2

京畿道	江原道	慶尚南道	慶尚北道	全羅南道
324	57	182	85	296
全羅北道	忠清南道	忠清北道	済州島	海外
20	120	16	3	6



図 1

割合を示している。

人、外見に対する描写の場合、説話の話者が当時の経験で、人として認識して発言したもの、他の事例に属せず、妖怪の一部に対する描写が語られるものを整理し、以外の説話でトッケビがどのような形で化けているかについては語られていない。しかし、トッケビが化けて人と関わる説話の場合、シルムなどの人と対等な相互作用を要求していたため、人、あるいは人に準じる形をしていたと推測する。

トッケビ火説話の場合、空中に浮いている青・赤の発光体を意味し、単純な目撃譚としての説話が大多数を示している。トッケビ火が人に影響を及ぼす説話の数は少ないが、海岸地方における3.漁村の神としての囃ではトッケビ火が人に影響を及ぼす主体として語られるため、特徴の分析が可能である。

この後の章からはそれぞれの説話の内容と共に、そのイメージ像と特徴を検討していき、本論文に収録された説話は、全て筆者が翻訳したものである。

第3章 箒のトッケビ

(1) 箒トッケビの説話

上記したグラフを見ればわかる通り、韓国で採録されたトッケビ説話は箒の形で登場するトッケビ説話であり、同じ類型である、杵、火かき棒などの事物型の説話は本体の事物で差は生じるものの、その内容はほぼ同じである。本体が箒で、トッケビ

が何かに化ける点から、化けた時点の描写が人・トッケビ火として登場する説話も多数であり、実質的ほとんどの説話が箒型説話といっても過言ではない。またその数の多さに比例して、箒型トッケビ説話ではより多様な特徴を見出すことができた。

説話 (1)

私とその、聞いたことがあって、あ…あれ、なんか、

荷物を背負子に載せて道を歩いていると真夜中に。こいつがシルムををしよと言うんだ。だから…だから少し暗いし、やったんだ。

調査者：暗いから

暗い。真昼にはトッケビは出ない。それが真夜中、おぼろよになってからトッケビが出るんだよ。

だから、トッケビを縛って、シルムが下手だから、野原に置いといて

だから、こいつがずっと、続く。倒しても、またやろうとくつつくから、仕方なく。腰紐を、最近では腰紐がこんなものだけど、昔はすべて、麻の腰紐だったんだ。

調査者：そう、そうですね。

こいつの首を折ってから、樹にぶら下がらせて、縛っておいて、

次の日の朝に行ってみたら、箒が。

箒がゆらゆらしていたんだ。

だからトッケビというものが、人ので、手によく触れるものが、強いて言うなら、シゴリ

でトッケビになるということだよ。

調査者：シゴリ？

そう。

調査者：シゴリってなんですか？

そう。ひとの手に、手になじみすぎた物が、それがいわば、古くなるとそれになるという話。

調査者：じゃ、箒以外には何がトッケビになれるんでしょうか？

だから、なにか他の物はというと、人の手に触れた古い物は…

聴衆：殻竿。

調査者：殻竿！

人の手に古く付いた物は、

調査者：物は

聴衆：トッケビが、昔は、まあ…ほとんど素手で触ったから

調査者：そうですね。

その時は、まあ…使ったから。人の燐、燐が沢山ついているから。

人の燐が付いた物が…

その殻竿という回すものが、竿が、たまに古くなって使い物にならないから捨てると、そんなものがトッケビになるという話がある。

調査者：はい。面白いですね。

箒と、殻竿と、そんな物がトッケビになるという話がある。

聴衆：人が沢山使った後に捨てた物。⁽⁶⁾

この説話は2010年3月6日、全羅南道光陽市津月面新鷲里で採録された「トッケビとシルムする」である。

大多数の箒型トッケビ説話のあらすじはこの説話と似通っている。‘夕方から夜明けまでの時間帯で、とある理由で夜遅くなり、丘、山などの稜線を越える。越える途中でトッケビと遭遇し、トッケビはシルムを挑んでくる。その過程で夜明けまでシルムをさせられ、気を失うか、トッケビに勝つまでシルムを繰り返される。トッケビに勝つ場合、腰紐や縄などで、樹の幹や電信柱などにトッケビを縛っておいて帰宅する。気絶から目を覚めるか、トッケビの様態を確かめるべく稜線を訪れるとトッケビはなく、箒などの事物が樹に縛られ

るか、地に落ちている。’でまとめられる。

トッケビの本体としては箒が最も多く登場するが、殻竿、杵、火かき棒等、過去韓国の厨房でよく見かける用品が登場する説話もあり、共通的な特徴としては‘人の手垢が付いた’などの使用された事物である点である。

トッケビと遭遇する人物は老若男女を問わない。一般的な方法ではトッケビは動じず、説話によって差はあるが、主に左足を引掛けることで容易く倒せると語られている。一部ではトッケビと遭遇した人は遭遇して数日後に亡くなるという説話も存在する。

説話 (2)

その、うちのここ、うちにあるんだよ。使わない房室が一つあるんだ。

その房室に踏み臼がある。

そう、昔はその臼を、夜になるとどしんどしんと人が踏む如く搗いたんだ

どしんどしんと搗くんだよ

そうすると、行ってみる人もあるけど、でもいっても何もないよ。無駄ごとをするんだ。

トッケビが搗くものなんだよ、トッケビが。そうすると、トッケビが火をな。行列を作って

出回っていたんだけど、今はトッケビがない。トッケビがなく、

電灯の光があるからだろうな。電灯の光があるからない。

前には、その、経血みたいなのが付いたら、敷いて座って、そこに血が付くとトッケビになるんだ。

でも今は箒みたいなものも敷いて坐ったりしないから、そんなこともない。

昔、火をともし時期はトッケビが部屋の門の隙間から入ってきて火を盗んで行ったりしたんだけど、

今は電灯を使うから盗めないんだ。

だから、今はそんなこともないし、房室では間違いなく、私たちの前でもどしんどしんと搗いていたんだ。⁽⁷⁾

この説話は2009年7月20日慶尚南道歙咸陽郡馬川面九楊で収録された「踏み臼を搗くトッケビ

話」である。この説話は事物型トッケビ説話では珍しく、トッケビが何かに化ける様子が見えない。直接的に人の前で姿を現すトッケビ説話とは違い、むしろ人の前では隠れ、存在も音として確認できるだけである。音として登場するトッケビは踏み臼を踏む音だけでなく、足音、楽器の音、ガラスや磁器などが割れる音など多様な音で登場してる。

説話 (3)

それがいろいろあるけど、そのトッケビが大きい奴があって、小さい奴がある、ということさ。その大きい奴は力士でも負けるし、小さい奴は勝てる。

そう、大きい奴は杵で、杵は知っているか？

調査者：杵、臼の杵ですよ。

杵を抜いておいた所に、女たちが座って遊ぶときに血が付いてしまうってことさ。体から出る血が。それで、此奴が化けるってことさ。だからトッケビになる。

そうやってトッケビになる奴が大きいトッケビで、小さいトッケビは箒あるだろう？箒。

調査者：小さい箒みたいなの？

そう。で昔は新式の厨房ではなかったから、箒で床を掃いたりするんだけど、箒を敷いて坐ってから血が付くと、それがそのトッケビになる。

昔、この町でも、豚、村に豚が結構あるから、農事するところ近くに家を建てて、そこに夕方行って豚に向けて叫んでその家に入れるんだよ。

そう。この上で豚を見て、ここでまた豚を見て、そこでも豚を見て、そう、谷間で全部見たんだ。

で、ここで見た人が、まあ、伝説ではなくて、私たちが知っているから。ここで豚を見た人が自分の水田で、水田がこんな形をしているけど。

ここに何をつるしておいたかっていうと？ブリキに、ブリキの樽、ブリキの缶詰あるじゃないですか？そこに短めの箒を、紐に結んで、そこに短めの箒をつるしておいたんです。

風が吹いたらこんな風にこんこんと。よく作っておいたんです。で、叫んでから、自分

の豚たちが出て来るのかと確かめるために、見てみると、

トッケビがいきなりかかってきたんです。背が大きい奴がかかってきたんですよ。

で、槍をもって、槍をもって、それでこの人がそのトッケビと戦って、何とかして槍でぶすっと刺したんです。その槍で刺したまま水田の中に刺しおいて。

それで爺さんが谷間から降りたんです。夕方には結局豚はみられなかったし、爺さん徹夜して、日が昇ってから、豚の件もあって、戦ったことも合るから、谷間に上って。

そう、夜が明けて、山に登って、槍を刺しておいたものを抜いて煮たら。何を刺しておいたかっていうと？短めの箒を刺しておいたんです。田んぼの真ん中で刺しておいたんです。それで、その分の稲作が一荷にもなるけど、捨てるようになったんです。昔話でもなく、あまり時間もたってないから。⁽⁸⁾

2009年7月23日、慶尚南道咸陽郡栢田面大安里から採録された「杵が化けたトッケビと戦った話」である。トッケビの本体である事物の大きさによってトッケビの特徴にも差を見せている。人と似た大きさのトッケビの場合、室内でよく使われる短めの箒として表現される説話が多く、室外で使う長めの箒や、杵、穀竿などは背が高く、図体が大きいトッケビとして表現される説話が見られた。

「杵が化けたトッケビと戦った話」を含む大多数の事物型トッケビ説話でよくみられる要素として、「血、特に経血が付いた事物はトッケビになる」という点である。トッケビになる事物についても、過去韓国の厨房でよくみられる事物、女性が厨房で仕事をしながら、敷いて坐れる事物という共通点は多様なトッケビ説話でも見られている。

トッケビ説話でも箒として登場するケースが多いことは過去韓国の厨房の環境から理解できる点である。韓屋の暖房設備であるオンドルは床暖房であり、厨房のかまどで炊いた煙と熱気を床下の通路に流して部屋を暖める方式である。熱気を床下に通すため、かまどは地面と接していることが韓国厨房の特徴である。

過去、朝鮮半島の性的役割によって、厨房で食

事や暖房のために、かまどを管理することは女性の役割であり、地面に接しているかまどの管理のためにはしゃがむ必要があったに違いない。厨房にはかまどから出る燃え尽きた薪と灰の掃除のために箒が具備され、女性は不便なしゃがむ体制を避けるため箒を敷いて坐り、よって経血が付いた箒型のトッケビ説話が発達したと使われる。箒の中でも室内で使われる短めの箒が主流であることもこれに関する証拠とみなされる。

(2) トッケビと血

上記したように、経血が付いた事物がトッケビになるという説話が多数採録されたことから、トッケビと経血に関連性があることは確実である。しかし、経血とは相反する血が登場する説話も多数存在することが確認できるため、経血と血がトッケビの存在意義にどのような関連があるかを検討する必要性があると判断される。

説話 (4)

で、夜になったら、トッケビは垣も何もひらりと超えて入ってきたらしい。あんな所を。そんな風に行ったり来たりして、ある日は家族たちが、年頃の娘がなぜだか痩せていくことに気づく。がりがりに痩せて、家族たちが尋ねてみたんだ。

“君、どうしたんだ？ どうしたんだ？”

でも、言わないんだ。トッケビが行ったり来たり、この子が人がトッケビだった、とか、人が通っているとか、そんな話もするわけがないから。

でも、その子は何も知らずに、どうして、なんでその人一人だけが通ってくる、夜にだけまた来るその男が。

夜にだけ来るけど、ずっと痩せていくから、家族が何度か言えと言う。

“言ってみろ、言ってみろ。”と

だから、ずっと追求するから、母さんにはその事実を言ったんだ。

だから、その母さんが心配をするんだよ。どうしてそんなことをするのかと。他でもなく、昔は人を雇って使ったりしたからさ。

下人を雇って暮らすから、見張りをさせたら

しい。

いつものように、口笛の音がしてから、人が垣を超えて飛び越えて入ってきたら、その年ごろの娘の部屋に入ったらしい。

で、そっと覗いてみたら、入った後に、そのこと一緒にシルムをして、寝ては帰ってしまうんだよ。

トッケビに悩まされて、特にその人、そのトッケビが通いながら特別にいじめたりしなこともないのに、痩せていくんだよ。

聴衆：血を吸ったからだよ。それ

だから、‘どうすればトッケビが離れるようにできるか’と、それについて研究をする途中 靈験な占い師が、靈感な導師がだっけか、何かに行つて、聞いてみたら、馬を、乗って走る馬。

馬を屠畜して馬の頭は大門の前に掲げといて、馬の血は受けて全部柵の端にかけろと言われたんだ。

柵の端にかけろと。だから、言われたとおりにしたらしい。

馬の頭は大門の前に掲げといて、馬の血は受けて四方柵にかけたら、トッケビが馬の血をそんなに怖がっていたらしい。

だから、それをトッケビが妻に来る途中、上を見ると馬の血が四方にかけられて。

言う、大門の前には馬の頭が掲げられているから怖くて、妻に近寄れない。入ることができないと。トッケビが言うことが

“町中の人たち、私の話を聞いてください。情が移ったはずなのに、心の奥からの情を”

言う、そぶりを見せて…あ、妻が尋ねてみたらしい。そのトッケビに向けて質問したらしい。

“貴方は何が一番怖いですか？”

そんな風に尋ねてみると、馬の血が一番怖いとトッケビが教えてくれたらしい。

あ、それでやってみたら、‘親しくなったと思ってたのに、そんなこともなかった’と

だから、教えてくれたら、それを血をぶっ掛けることで、それで、

“雷でも食らえと”と

周辺の砂利を矢鱈めたらに投げてきたらし

い。トッケビが。だから砂利の雷に当たって死ぬかもしれない、どう暮らすんだよ。

その後、出てから言うことが。

“ああ、家に肥料をこんなに、肥料を夕方ごとに持ってきてくれてお金持ちになるだろうな。”と

“これをもって水田に入れると肥料になって稲作も良くなって、豊作だろうな。”と

寝て起きたら、砂利が全部なくなっていたらしい。あ、そしてなんだっけ、

聴衆：犬の糞を

犬の糞を水田に投げ捨てていたらしい。

だから豊作になって、豊かに暮らしたらしい。

昔にそんな話もあったよ。⁽⁹⁾

2012年2月1日、全羅北道金堤市金溝面で採録された「トッケビのおかげでお金持ちになった処女の家」の一部である。この説話は説話分類の2.福を与える神としての嘶と4.トッケビを退治する嘶に属する説話であり、トッケビを利用してお金持ちになる、トッケビの財物神としての姿が繁栄された説話である。この説話で注目すべきところはトッケビが自ら馬と馬の血を嫌うことを明かすところである。これはトッケビの純真な性格を見せる場面でもあるが、経血から成るトッケビが血を怖がるという特徴を見せる相反する特徴を見せる内容でもある。これをもってトッケビにとって経血と馬の血がどのような意味を持つかの検討の必要性を感じる。

説話で見られる馬、馬の血はトッケビが嫌う要素として機能しており、これらは儒教の影響を受けた韓国での陰陽五行説の意味が含まれていることを指している。トッケビは雑鬼の性格を持つ妖怪として、夕方から夜明けまでの時間帯によく登場すること、女性の経血から成るという点を踏まえれば、強い隠の性質を帯びていることを指しており、トッケビが嫌う馬の場合、特に白馬の血は韓国で強い陽の性質を帯びている象徴と使われている。

馬は十二支では午と表記され、その分類表では火、赤と等価性を持つ陽の要素としてトッケビに効果的と言われ、男性的、活力、素早さ、精進、理性を象徴し、古代人において神聖な力の象徴で

もあった。また、午という文字からして太陽が最も高く昇っている時間を意味し、文字から陽の性質を意味し、過去韓国で帝王が出現する兆しとして太陽が関連し、太陽は男性を象徴していた。天馬は空と共通する霊物として、これもまた神聖を象徴している。

白は、陰陽五行説では西を意味し、金の性質を持っているため、隠の性質を帯びている。しかし、韓民族の古代太陽崇拜では、白は太陽、光、明るさを象徴する要素そして韓民族の独自の陰陽五行説では陽の性質を持つこととして受け入れられている。

「トッケビとシルムする」説話のようにトッケビにシルムをさせられる説話において左足を引っ掛けるとトッケビが倒れるという言及が多数あるが、ここでも左方向が陰陽五行説での陽の要素が反映されたものとみなされる。天子の背北南面の原理に基づいて、朝鮮の官僚は左議政が右議政より格が高く、生理学を国の根幹とした朝鮮では武家は文家より下待される側面があり、左青龍が文官、右白虎が武官を象徴する事例から、左も神聖の性格を持つ方向であった。⁽¹⁰⁾

トッケビと経血との連関性は説話に局限されたものではなく、現代にも伝承が続かれている民間信仰でも見られている。全羅南道珍島郡で伝承されているトッケビグッは旧暦2月1日に行われる祭儀であり、この祭儀でのトッケビは疫神的存在として役割をしている。祭儀は女性が中心になって行われ、トッケビを村から追い払うことで、1年を流行り病がなく、安全に過ごすことを祈願する。祭儀の道具として、竿の端に「ジュンウ」と呼ばれる女性の下着をつけて、行列を作り、村を回る過程で、一部の地域では経血が付いた「ジュンウ」を掛けることがある。トッケビを生み出す経血が、この祭儀ではトッケビを追い払う道具として使われることは異質的と考えられる。⁽¹¹⁾

経血がトッケビを生み出すと同時に、トッケビを追い払う役目をする理由は、経血に対する恐怖と不正、不敬さから起因されたと考えられる。人が生産力として直結される農耕時代において、妊娠に失敗した血としての経血は、死と関連付けられ、不正なものとして扱われた。慶尚北道高靈郡ではこのような経血の不正で、天を怒らせ、雨を

降らせるという雨ごいが行われるほど、経血は負の要素として考えられ、負はトッケビを生み出すと同時に、トッケビすら怖るほどの汚れとして考える民族情緒を持っていると思われる。⁽¹²⁾

陰陽五行説では、赤は前述したように、火、午と同じく、陽の要素とし作用され、血の赤色は辟邪の機能として活用された。説話で見られる垣に血をばら撒くことと似た風習として、夜が最も長い、つまり陰気が最も強いとされる冬至には小豆粥を食べるか、周辺にばら撒く風習が存在する。これは血と同じく、赤色の小豆粥を掛けることで、病魔を追い払う意味を持っている。

第4章 トッケビ火と漁村

トッケビ火は日本においての鬼火、狐火と同一と考えられる現象であり、韓国でのトッケビ火が登場する説話は、その説話の話者が直接経験した事実に基づいていることが特徴であるが、大多数の説話が単純な目撃情報の性質を持っている。

説話によってトッケビ火は普通の形と赤色と表現されることもあるが、大多数は青の発光体として表現され、雨が降る前の日、暗い時間帯に出現している。行動様式については分裂と合体、規則がない動きを見せ、説話ごとの共通性が見られないことに、その数も、一つから数え切れないほど多く登場するなど、一貫性を見せていない。

現代の科学の発展により、トッケビ火が燐の発光現象であったと語る説話が多く、出現場所も墓場、古木等の燐が出やすい環境であることから、死んだ人、動物、植物から発生した燐の発酵現象と見ることも正しい考え方である。

トッケビ火はトッケビの出現に伴うトッケビの外見要素として登場することもあり、このケースにおいても特に主体的な行動をすることはない。

トッケビ火が行為の主体として行われる説話の場合、1. トッケビに惑わされた噺に属するが、説話のあらすじはトッケビ火を一般的なトッケビ、またはトッケビが化けた人として登場する説話と同一であり、トッケビ火の正体も血が付いている筈として結論される説話が多数である。

このように、トッケビ火は他のトッケビ説話とは区別される特徴がないが、漁村で現れるトッケ

ビ火の場合、3. 漁村の神としての噺に属する説話が存在するため、他のトッケビ説話とは区別される特徴を見出せることができた。

説話 (5)

調査者：トッケビ、トッケビが先の話で～、火が沢山あったり、一つだったり、二つだったり、三つだったりしたじゃないですか？

はい。

調査者：このようにトッケビ火が沢山出る所では、何か特別に、海辺なのでは何、魚が沢山取れたりするとか、そんな話がありますか？

そうですね。正しい。そうそう…私たちが人の眼を騙すあれを見てその…因縁だっけ？因縁だったか何だったか、それが…

聴衆：燐！燐！

燐が矢鱈と飛び回るから人が～

“私が今正気ではないみたいだ”

と思うときにはそんなものがある。

特に海辺でそれがいっぱい出るんですよ。矢鱈と～海辺で、昔、私たちの里では海辺で魚を釣って、何かやっていると、海でいきなりケンガリの音が鳴り、太鼓の音が鳴ったりするんですよ。

これが見てみると、その日の夕方に魚が沢山取れるんですよ。

“そのトッケビが追ってくれたからこうなった”

はは、こんな歴史がここには沢山去ります。

順々に

調査者：だから、海でトッケビを見ると魚が沢山取れると…

そうだね⁽¹³⁾

2014年3月21日、全羅南道康津郡薪田で採録された「トッケビ火と豊漁」という説話である。3. 漁村の神としての噺に属する説話であり、トッケビ火としてのトッケビ説話でしか発見されていない。海岸にトッケビ火と音などの異常現象が起き、その発生源では魚が沢山取れるため、トッケビが魚を追ってくれたという内容で構成されている。

このような豊漁神的性格を持つトッケビは説話より信仰としてより情報が存在し、特に全羅道の海辺でこのような信仰が発達している。朝鮮半島

の地理的特徴として干潟が発展した西海岸では、古代から魚路で網を張って引潮と満潮を利用して魚を取る‘拳網’という方式が発達し、運によって魚の漁獲量が決まっている。よって魚がよく集まるよう、魚を追ってくれる対象を求め、その対象としてトッケビが選定された。上の説話でも現れるように海で出る音、その中で、引潮時の音をトッケビが歩く音として考え、そのような信心は西海岸地方においてトッケビ告祀として発達するようになる。告祀の過程ではトッケビの好物と知られた蕎麦蒟蒻と豚肉を祭物として捧げることでその対象がトッケビであることは確実である。⁽¹⁴⁾

これと似た風習としてトッケビ火を応用して占いをし、その場所に魚網を設置する占世俗も西海岸を中心に伝承が続かれている。説話で見られるように、トッケビ火が現れる場所で魚が沢山取れるという認識から発達され、暗い時間帯、高い場所で海を眺め、トッケビ火を観察する。そのトッケビ火が現れた場所に魚網を設置する風習は、内陸に伝承される、トッケビが現れる場所に家を建てるとお金持ちになる「トッケビ処」説話と似通って、トッケビが富を与える存在という思考に根拠する。トッケビ火が青色、形から一般的な炎と違うと描写され、トッケビ火が一般的な存在でないことを見せている。海でのプランクトンによる発光現象と結ぶこともあるが、目撃者の表現としてはそれと違っていると言われるため現象に対する解析が必要に見える。⁽¹⁵⁾

主に全羅道地域で行われるが、忠清道、北朝鮮の黄海道でも行われるため、朝鮮半島の西海岸地方では全体的に普遍的な伝承であったと推測可能であり、現在は干潟干拓事業や環境汚染などにより干潟が毀損され、伝承が断絶段階にある。

海岸地方で伝承されるトッケビ説話は豊漁に関すること以外にも特徴的な事例を発見することができた。

説話 (6)

あちらの爺さんの話を見ると。今は皆亡くなっていっしょらないけど。

皆 100 歳を超えて今。

その方たちと一緒に釣りに行くと、たまに話ができる。

その多くっても、そんなトッケビ、トッケビ火があって、トッケビ船があったらしい。

あったかどうかは確かではないけど、昔は風…なんだっけ、

帆船。それに乗ってこう。

調査者：風帆船。

この小さいけど、小さい船で、櫓で進むようなそんな船で

風が吹けば帆を広げたりして。

ある時、さりげなく。ただ来ては、横に来るその船が。

船のような形が現れては帆を広げて

そうすると、その船が下の方にいると、風の下にいると、その船を導いてくれる船であり、風の上の方にいると帆の船に害をすると。そんな話がありました。⁽¹⁶⁾

説話 (7)

昔、爺さんたちは風帆船を入れるとき、トッケビ船と言ったんだ。これをトッケビ船と言ったんだけど。

はい。トッケビ船と言ったんだけど、こちらの地域ではなく、あちら上の地方で。

で、あの木浦の沖合で、また西海岸沖合に行って、麗瑞島まで通って魚取りをやって前に船、トッケビ火を追って航海をすると事故に合い、

後ろからトッケビ火が付いてくると案内する船であり、

そんな伝説みたいな話はあるけど

それが事実ですか、実際ですか、と言われるとはっきり答えは出来ない。⁽¹⁷⁾

両説話ともに2010年8月20日・21日に、全羅南道麗水市三山面草島里で採集された「トッケビ船」「トッケビ船」である。船トッケビ、トッケビ船と呼ばれ、船にトッケビ火がある形態、またはトッケビ火だけが登場する形で説話で描写される。現れる位置によって人に害を与えるか得をする行為は、人と親しいと同時に、害を与え退治の対象を表すトッケビの二面性を良く見せる説話に見られるが、トッケビ船の説話の数が少なく、全羅道の一部地方でしか採録されなかった点は、

トッケビ祭を行う全羅道によりトッケビ船に肯定的な側面を与えた結果と見られる。韓国口碑文学大系の第1次事業で採録されたトッケビ船の説話は1979年8月、慶尚南道巨濟市で3件採録されたことがあり、この説話では、トッケビ船は船の進行方向を妨害し、事故を起す、害を与える側面だけが描写されている。

忠清南道保寧市の元山島でも害を与えるトッケビ船の説話が採録されたことがある。このようなトッケビ船はある種の幻覚であり、日本でも幽霊船の形で口伝されている。⁽¹⁸⁾

トッケビ火は現在は自然現象として扱われる傾向があり、説話でも単純な目撃譚として口伝されている点、海外でも鬼火、狐火、幽霊船などのように、似たような事例が発見される点は、韓国特有のトッケビの特性を見出せることは難しいとみなされる。しかし、トッケビ火をもって豊漁を祈願する祭儀と説話が伝承されている点は、干潟が世界遺産に登録されるほど発達した朝鮮半島の特徴がよく染み込んだ説話と見れるだろう。

第5章 トッケビと鬼神

(1) 人の形態をしたトッケビ

今まで紹介した説話ではトッケビの本体としての物事、目撃譚としてのトッケビ火がほとんどの比率を指している。これらの説話からはトッケビが人と相互作用をする過程において、人の形と推定される描写は行われているが、一般的に鬼と描かれるような、人と似た形として登場する説話が見られていない。では鬼のような、角が付いたトッケビは存在しないかという疑問が生じる。

グラフでは人であったという言及がある説話は55件と、箒とトッケビ火の次に位置し、その他の身体の一部、身体の特徴に対して言及する説話も25件であるため、我々の目の前に表れたトッケビがどのような姿であったかは推定できると思われる。

説話 (8)

昔、その…道に行く途中。
ああ、とある新妻が。
“ああ、一緒に行きましょう。お兄さん、お兄

さん”と一緒にいこうとずっとずっとというから馬に乗ってゆく途中、馬に乗って、さてどこまで行っても

“ああ、お兄さん一緒に行ってください”

“私にはあなたのような妹が無いのに、なぜずっとお兄さんと呼ぶんだ”と

しかしずっと“お兄さん、お兄さん、私を助けてください。”と言うから

馬に載せては、縄で縛っておいて道を行くと。必死に行くと、いつの間にか夜が明けて、縄を解いてみると、それが箒だったんだよ
それで助かったのさ。⁽¹⁹⁾

2014年4月20日、江原道太白市三水洞で採録された「トッケビにあった人」という説話で、1. トッケビに惑わされる噺に属している。当説話でも同じくトッケビの正体は事物の箒として登場するが、その差は人の前で新妻という、人と認識できる姿で登場するという点である。トッケビの語源が、生産と富を意味する「뿔(トッ)」と男性、父を意味する「아비(アビ)」であることから富と生産機能を持つ男性神である⁽²⁰⁾こととは違い、女性として描写されていることは特徴的である。シルムなどの力試しを要求する点から男性と推定される説話では、トッケビが負けることでトッケビの要求が完遂されないとは違い、女性として登場すると目的地まで乗せてもらうことも完遂させるという点から男性トッケビより賢い面を見せている。

あらずじは、時間帯は夜、場所は道端であり、馬や、車などに乗せてもらうことを要求されるが、疑っても、結局乗せるようになり、落ちないように紐で体に結んでおく。後に正気に戻って確かめると箒であったと、ようやくでき、このような流れの説話ではすべて女性として登場している。

人の形として1. トッケビに惑わされる噺の類型をする説話では、知らない女性、翁、または近所の知人として現れ、茨の道や水溜りを通るように誘導する。正気を失うまで追いかけた後、気絶から目を覚めるとその横には箒があったというあらずじで構成されており、人ではなく、トッケビ火として登場する説話も存在する。上の説話では命には支障ないことに反して、茨や、水溜りによっ

て人が死ぬというケースも存在し、人に直接害を与える姿を見せている。

説話 (9)

これは私の母の話なんだけど。

聴衆：今日、沢山話すな。

私の実家の母の話だけど、

母が昔、その女でも、男の如く、気が強かったらしい。気が

で、ここで住んでったこと寂、岳陽、そのピョンサと、その入ることろのデジョンという、そこで母が住んだらしいです、昔は。

今は岳陽の全てが全部水田で。

昔はそこが全部湖だったらしいです。

調査者：湖

そう、ただこのような丸い湖さ。

それで、そこで蓮の花も積んだり、そんな湖で。ノベンイ庭と呼んだらしい。その湖を

調査者：ノベンイ庭

それほどその庭が広がったらしい。

で、母は父が早く亡くなり、一人で暮らしながら。

河東市に買い物して、ゲツというところがあるけど、その岳陽の下のそこを上っていると。

前に男二人が通っていたらしい。男二人が行くんだけど、ずっと先を歩いて、

“私は、前に人がいるから怖くない”

夜だから、そんな風に考えて、登って、登っていると

うっかりするけど、

このくらい近づくと、そのくらい遠くなって、また少し近づくと、そのくらい遠くなって、だから仕方なく、

“おじさん、おじさん一緒に行きましょう。一緒に行きましょう。”

そう呼んでも、答えがなかったらしいです。

言葉がないからどうりで怪しくて、それで‘何かの鬼神なのかな？’

と思い、大きく歌いながら、ノベンイ庭で歩きながら、歌を歌って、そこで二人の間が分かれたから、歌いながら近づくと。

こう、上を除いてみると、限りなく、それが高くなったんよ。人が

鬼神か？トッケビかはわからない。今は調査者；そうですね。

そんな風に大きくなって、これがまさに、これがまさに、正気に戻って

そこで座り込んだ後に、煙草を一本吸ってはおき上がって、そのノベンイ庭を歩いて家まで帰ってきたらしい。到着をしたらしい。

しかし、その村の男の人が母の後ろについてくる途中にその人たちにかかったらしい。鬼神に。

でも、母はそれ、気が強いからそこで捕まらなかったし。⁽²¹⁾

2010年3月20日、全羅南道光陽市多鴨面錦川里から採録された「実家の母が出会ったノベンイ庭のトッケビ」である。説話ではトッケビを男性の人として描写されており、話者もまた、男性を人として認識して、安心感を感じる内容から、人と化ける時のトッケビは人と区別ができないことが分かる。しかし、一定距離を常に保っていること、仰ぎ見るとだんだん大きくなっていく点は彼らが人外の特異性存在であることを認識させ、仰いでみると大きくなるという点は、トッケビの一種と言われるオデュクシニの特徴を見せている。

説話で‘鬼神か？トッケビか？’という内容からトッケビと鬼神の区別を難しがる傾向を見せており、これはこの説話に局限された話ではなく、人、特に知らない人として登場する説話でよく見られる。

(2) 卵トッケビと卵鬼神

トッケビと鬼神の区別が曖昧なところはトッケビの名称からも見られている。その事例として卵トッケビと卵鬼神の説話を一つずつ紹介する。

説話 (10)

何であつたけ、あそこ、バンゴルの方に上る所には卵鬼神、卵鬼神もあるし、向かってそれを蹴るとだんだん

大きくなるという、そんな噂もあったし。

そんな夜に行くと、あんなところはわけもなくしんとするようになって、毛先が立つし。

で、昔、あんな思い出があつたんよ。

調査者：あ、卵鬼神の話は初めて聞きました。

その話をもうちょっとお願いします。どんな話ですか？

聴衆：ああ、もうやめましょう。

調査者：だんだん大きくなるものですか？

そうだね。足で、あれなんだっけ、このくらいの大きさの物があって、一回蹴るとそれがだんだん大きくなる。

で、そういうものをさ、最初は卵の大きさだった物が、ずっと蹴るとだんだん大きくなって、卵鬼神、それがあまりにも大きくなって道を塞ぐようになるという、伝説があったんだよ。

調査者：ああ、そうなんですね。⁽²²⁾

説話 (11)

毎日、翁たちが私たちの里にはなに、あちらの方に、下の角の方に出かけると、あちらに行くと、あれなに、挽き臼の下から何かが出ると言うから、こちらに来ると

私のお婆の家の便所では卵鬼神が出ると言っていて、毎回言っていて、

それで、私がトイレに行こうとすると、トイレに行くと道端であれ、卵トッケビがあるんだけど、卵トッケビがどんなふうにできているかという、卵くらいの大きさであって、一回、とんと打つとこのくらいに大きくな、また、そう足蹴にされているというからさ、翁たちは

聴衆：卵鬼神の話は本当にやった。

そう、翁たちが足蹴にされると言っていたよ。そう。

“君これから、あそこに出かけるときに、卵鬼神にばれると大変、怒られるよ。”と

“卵鬼神、良ければいいでしょう。”と言うと足で蹴られるというのさ。

“一回蹴るとこのくらい大きくなり、二二回蹴るとまたこのくらい大きくなり、三回蹴るとこうなり、なに、四回蹴ると君の前を塞ぐから。”

そう言ったんだよ、翁たちが。だから、こっちにも行けなく、あっちにも行けなく、ただ、下の角にしか、昔は何もないから。

灯で靴下、靴下を作り、靴下、こう婆さんが糸を結んでくれて靴下を作ったり、あの編み物し

に歩き回ったから、灯の下に座って編ながら。

私たちは、花札も沢山やったよ。罰ゲームで手首にデコピンをしたり。⁽²³⁾

それぞれ2016年2月18日、京畿道城南市寿井区と、2011年1月22日、京畿道利川市栢沙面で採録された、「足でけると大きくなる卵鬼神」「卵トッケビ」である。

現在の韓国で使われる卵鬼神は、日本ののっぺらぼうの翻訳名として使われ、説話で語られる卵鬼神はその存在を知らない人が多い。卵鬼神は放置された卵がトッケビになる妖怪として、割れることがなく、人が蹴るとだんだん大きくなり、道を塞いだり、人の方に転んでくる特徴を持っている。妖怪の表記としては卵トッケビと卵鬼神に分かれているが、説話で見られる特徴や形態描写から同一な現象を表している。妖怪の生成理由である「古くなった物が時間がたつて妖怪になる」とだんだん大きくなるという特徴は、卵鬼神、卵トッケビがトッケビの一種類に属することは確実にあるが、説話でも見られるように、卵鬼神という表記がより使われている。

人の形のトッケビを鬼神とトッケビ、どれであったかを確実に決められない点と、卵トッケビと卵鬼神の表記を並行し、卵鬼神の表記がより使われている点で、トッケビ、つまり韓国人において妖怪と鬼神の区分が曖昧であることが確認でき、それについてある仮説を立ててみた。⁽²⁴⁾

トッケビは高麗時代以前までは自然神として崇拝される対象であった。しかし、朝鮮王朝が朝鮮半島で建国され、国の根幹となる思想を宗教ではなく、儒教にすることで、トッケビを含む怪力乱神は邪道と指定され、共同体での神としてのトッケビは、共同体の外に追い出され妖怪に格下げされるようになる。朝鮮社会は学問を中心に成り立つため、共同体の中心となる神がなく、それに伴ってトッケビも神の眷属としての鬼神として格上げされることはなかったと考えられる。西海岸などの一部の地域では、民間信仰に基づいてトッケビは自然神、豊漁神として崇拝され続け、これが現在のトッケビ祭として伝承されてきた。つまりトッケビは妖怪と神の属性を同時に持った状態であったことになる。

似たような事例として、儒教の影響で朝鮮半島では教を重視し、死んだ先祖の霊はは祖上神として存在すると考えられ、墓参りや祭祀はそこから起因された風習と考えられる。祖霊としての先祖を家庭の守護神として考えることから、神と鬼神の境界を曖昧にする効果を成したと考えられる。

人が幻覚や錯視現象などを見た状況を、トッケビに惑わされた。鬼神に取り付かれたと表現すること、トッケビが韓国で伝承される妖怪全体を称する代名詞として使われる事例もまた、鬼神、妖怪の境界が曖昧であり、区分がなかったと推測する。

第6章 終わりに

説話上のトッケビのイメージ像は既存の鬼と似たように描かれたものとは違い、事物の形態が中心になって、人と親しい、人間的な面を見せる妖怪として、人と同じ形として登場する説話も多数発見されている。トッケビの一部の描写、特徴を見せる説話では背が大きい、一本足、力強い將軍などがあり、2編の説話で角が付いたトッケビに対する描写を探ることができた。筆者は現代に描かれるトッケビ像が日本帝国時代に、鬼をトッケビの挿絵として使用した影響であることは自明な事実であることは否定しないが、角が付いたトッケビ説話が存在する以上、この説話が日本帝国時代の影響を受けたかの可否によっては、角が付いたトッケビが鬼から由来されたものではない可能性も排除できないと思う。

サブカルチャーでのトッケビ像が日本帝国時代に定着されたトッケビ像の無分別な踏襲によるものであり、説話で見られる、男女問わず多様な描写が描かれることとは違い、現代にも鬼と似た姿で描かれる点、『鬼滅の刃』の韓国語翻訳版で鬼をトッケビに翻訳するように、トッケビを鬼の翻訳名称として使う事例は、消費者によって鬼とトッケビを同一視させる問題である。しかし、韓国のドラマ「トッケビー君がくれた愛しい日々」では説話で見られるように、剣という事物を本体とする人の形のトッケビが登場し、2019年11月に韓国のゲーム会社 PearlAbyss で公開した「Dokev」のトレーラーでは、トッケビを動物、植物が融合された姿で表現された事例から、既存

の鬼の姿を捨て、多様なトッケビ像を定着させる努力が見られている。これからは民俗研究を重ね、韓国特有のトッケビ像を取り戻すことが今後の課題であると思われる。

参考文献

- (1) 김중대 『한국도깨비의 전승과 변이』 보고서, 2017 (김·중대 『한국 토ッケ비의 伝承と変異』 보그社, 2017)
- (2) 『한국민속대백과사전』 <https://folkency.nfm.go.kr/> (『韓國民俗大百科事典』)
- (3) 『한국구비문학대계』 <https://gubi.aks.ac.kr/web/> (『韓國口碑文学大系』)
- (4) 朴美暎 『韓國の鬼トッケビの視覚表象』 京都大学出版会, 2015
- (5) 류경자 「구비설화 속 속신 (俗信) 의 형태와 구술담화적 기능 - 도깨비이야기 를 중심으로 -」 『동남어문논집 42』 동남어문학회 2016 (リュ・ギョンザ 「口碑説話の中の俗信の形態と口述談話的機能 - トッケビ話を中心に」 『東南語文論集』 42, 東南語文学会, 2016)
- (6) 中村禎里 『狸とその世界』 朝日新聞社, 1990

注

- (1) 김·중대 『韓國 토ッケ비의 伝承と変異』 보그社 2017.3 p32 ~ 37
- (2) 韓國民俗大百科事典
- (3) 김·중대 『韓國 토ッケ비의 伝承と変異』 보그社 2017.3 p9 ~ 11
- (4) 韓國口碑文学大系
- (5) 朴·美暎 『韓國の鬼トッケビの視覚表象』 京都大学学術出版会 2015.11 p32 ~ 37
- (6) 韓國口碑文学大系
- (7) 前注
- (8) 前注
- (9) 前注
- (10) 류·ギョンザ 「口碑説話の中俗信の形態と口術談話的機能 - トッケビ話を中心に」 『東南語文論集 42』 東南語文学会 2016 p20 ~ 24
- (11) 김·중대 『韓國 토ッケ비의 伝承と変異』

説話分析によるトッケビ像の再検討 —韓国口碑文学大系を中心に—

ボゴ社 2017.3 p9 ~ 11 p175 ~ 177

- (12) 朴・美暲『韓国の鬼トッケビの視覚表象』
京都大学学術出版会 2015.11 p14 ~ 16
- (13) 韓国口碑文学大系
- (14) キム・ジョンテ『韓国トッケビの伝承と変異』
ボゴ社 2017.3 p9 ~ 11 p193 ~ 196
- (15) 前注 p197 ~ 199
- (16) 韓国口碑文学大系
- (17) 前注
- (18) キム・ジョンテ『韓国トッケビの伝承と変異』
ボゴ社 2017.3 p9 ~ 11 p158 ~ 160
- (19) 韓国口碑文学大系
- (20) キム・ジョンテ『韓国トッケビの伝承と変異』
ボゴ社 2017.3 p9 ~ 11 p12 ~ 13
- (21) 韓国口碑文学大系
- (22) 前注
- (23) 前注
- (24) 中村禎里『狸とその世界』朝日新聞社 1990.4
p81 ~ 82